

「私の夢探し」

職場訪問学習・ ビジネスパーク



第49号
令和5年2月20日

豊城中学校区
青少年健全育成会
(事務局)
豊橋市立豊城中学校
豊橋市今橋町2-1
電話 54-1275
FAX 57-1964



二十歳のつどい

会長 小山勝信

春まだ浅いと感じるこの頃ですが、皆様におかれましては、日頃より青少年健全育成活動にご尽力いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

1月8日に松葉小学校で開催された「松葉校区二十歳のつどい」に出席しました。式典は極めて厳粛に進められ、参加者の表情や態度からは節目に当たったの意気込みが伝わってきました。八町校区でも素晴らしい「二十歳のつどい」が開催されたと、出席した方が話していました。今年度から「二十歳のつどい」の申し込みが、WEB申し込みに変わりました。現代的な方法です。

がかえって申込みが少なく、改めて校区社会教育委員会から参加の調査をしたと聞きました。担当された方の配慮や準備があつて、「二十歳のつどい」が開催されたと思えます。

新型コロナウイルスが問題となつて3年が過ぎました。今年度は3年ぶりに様々な行事が開催されました。健全育成会が計画した令和4年度事業もほぼ全て実施されました。この3年間で担当者は替わりましたが、健全育成の願いは強く引き継がれており、各種行事に参加して感じた次第です。今後とも、よろしく願います。



大人の役目

豊城中学校 校長 河合成始

「運動神経は遺伝するの?」と、知人に尋ねられました。答えは「NO」、そもそも運動神経は存在しません。子どもの頃に、多様な遊びを通じた運動経験を重ねることで、後天的に伸ばすことができるのです。

さて、未熟な子どもは、家庭・地域や学校等での生活体験を経て自律した社会人へと成長します。それを見守り支援することが大人の役目です。

▼家庭・子どもの安心感を膨らませるために、目を見て挨拶したり傾聴したりする。また、困っている人がいたら自然に手を差し伸べるような共感力や道徳性を行動で示す。

▼学校・集団生活を通して、自分の思うように物事は進まないことを子ども

もは肌で感じ取る。そして、目前の諸問題の解決に向けて試行錯誤する子どもの伴走者になる。

子どもの可能性は無限に広がります。私は着任以来、自他の可能性を奪う「どうせ無理」という言葉をなくそうと伝えて続けています。私たち大人は子どもから目と心を離さず、しかも口を出しすぎないことを心得るべきです。転ばぬ先の杖を与え過ぎると、子どもたちは周囲への依存が高まり、自ら考え行動しようとする力を失っていくからです。

子どもは家庭の宝であり地域の宝でもあります。これからも、この子を豊城中学校区の宝として、温かく見守っていききたいと思えます。

地域の皆様に 支えられた教育活動

松葉小

知りたいな 松葉のすてき ～2年 生活科の学習より～

子どもたちは二年生になり、地域の公園で遊んだり買い物をしたりするなど、自分たちの住む町にまで生活の場を広げています。また、本校区にはさまざまな商業施設、公共施設があり、それぞれの施設で行われている作業一つ一つが、その施設の特徴であり、



《工場見学の様子》

子どもたちにとって追究していく素材となります。そのような子どもたちの様子と地域学習に恵まれた校区の特色を生かすことで、自分たちが暮らす町への理解と愛着を深められると考える地域学習を行いました。

まず、訪れることでわくわくしたり、笑顔になったりする「すてき」を探すことを目標に掲げて校区探検に出かけ、いろいろな商業施設、公共施設があることを実際に目で見て確かめました。その後、各施設を見学し、発見したことを交流しました。話し合うなかで「ものすてき」から「人のすてき」へと、働く人の思いに着目していきました。「どんな思いで働いているのか」という問題を追究していくなかで、働く人の思いこそが「松葉のすてき」だということに気づいていきました。学んだ

ようこそ先輩 ～クラブ活動～

本校では、クラブ活動の時間を年二回「ようこそ先輩」という形で実施しています。子どもたちが新たな興味・関心を高め自分の夢を膨らませていってほしいという願いをこめ、校区に関係する方を中心に講師をお願いし、さまざまな講座を開いています。コロナウイルス感染症予防のため飲食関係の講座は開けませんので、以前に比べ講



ことを学習発表会で発表したり、お礼状やポスターなどで地域に発信したりしました。



《出前授業「ボランティアとは」》

【見たこと・聞いたこと】

・ほくはアルデックスという会社を見学しました。布を自動で切る機械があつて、あつという間に切つていたことと、機械の値段を聞いてびっくりしました。

・私はクリーニングラを見学しました。大きな洗濯機でたくさん洗濯物を洗つたり、たくさんの人と協力したりして仕事をしていることが分かりました。

【働く人の気持ちとは】

・小学生の時からずっと好きだったことを仕事にしているから、難しいことも頑張れるんだと思いました。

・「笑顔が一番」という言葉がいいなと思いました。m・お客さんのことを考えて、工夫や努力をしてい

るんだな
と思いま
した。



デザインプロジェクト

講座一覧

- ・花のある暮らし
- ・火起こし
- ・煮たきを楽しもう
- ・豊橋の伝統凧について学ぼう
- ・独楽(こま)作り
- ・将棋
- ・プログラミングにチャレンジ
- ・スクラッチプログラミングでゲーム作りにチャレンジ
- ・けがをしない体づくり
- ・バスケットボールを楽しむ
- ・ストリートダンス
- ・液体窒素実験
- ・目の錯覚実験
- ・手づくりロケット教室
- ・小学校や守下公園の自然観察
- ・レゴアーキテクチャーで建設模型体験
- ・リトミック教室

百五十年の学びを 「未来に引き継ぐ」ために 八町小

地域教育力に支えられた学びを、五十年先の未来へ

八町小学校は明治六年十月十五日の開校から百五十年の節目の年を迎えることとなりました。本年度当初には、八町小学校の卒業生が発起人となり、創立百五十年周年記念事業実行委員会が発足しました。これまでおよそ1年間にわたって様々な企画が実行委員会

で検討されてきましたが、全ての協議は、「子どもたちのために」という強い思いに基づいて行われてきました。令和五年十一月十八日(土)に予定されている「記念式典」や「創立百五十年記念誌」など、いずれの企画、提案についても「未来の八町小の子どもたちに何を残すことができるか」という実行委員の共通の思いが込められています。

小学校では、令和四年度一年間の教育活動を記録に残し、「創立二百周年の未来に伝えていく」として、行事や体験活動などに取り組んできました。八町小の特色ある教育活動は、学校周辺にある様々な歴史的、文化的な施設や体験活動に協力してくれている八

町校区自治会やボランティアグループの存在に支えられています。創立百五十年周年を機に、この恵まれた教育環境を生かした学習活動を再構築し、五十年先に引き継いでいくことも目指しています。



9月16日 芸術鑑賞会

例年、八町校区青少年健全育成会と共催で実施している「芸術鑑賞会(親子観劇会)」は、九月十六日に「豊城中人形浄瑠璃部」をお招きして、「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」の一部を演じてもらいました。いきいきと活動する中学生の姿にあこがれを抱き、「中学校で人形浄瑠璃部に入

部したい」という思いを抱いた児童も少なくありませんでした。また、三年生では人形浄瑠璃を鑑賞し「人形に触れてみたい」という思いをもつ多くの児童の願いをかなえるため、飽海町の鈴木省二さんが会長を務めていらつしやる「吉田文楽保存会」に協力を依頼し、人形浄瑠璃体験講座を実施することとなりました。四百年にわたって伝わる人形の仕組みやその技法を肌で感じて驚くとともに、この人形浄瑠璃の発祥の地となっている校区を誇りに感じる児童も多くなりました。



10月14日 3年人形浄瑠璃体験

あすなる学習のテーマは、防災(四年)、福祉(五年)、戦争と平和(六年)と各学年それぞれですが、一、二年生の生活科の学習も含めて、体験を通して、子どもが自ら気づき、考える「深い学び」を

支援しています。その体験活動やゲストティーチャーの多くは、長年にわたって八町校区の方々にお願ひしています。こうした地域の方々を支えられた各学年の学習の成果は、十一月十九日に開催しました「Hobby 八町ステージ」で発表されました。

また、これまで百五十年の八町小の歴史を児童とともに振り返るために、豊橋市で様々な分野で活躍されている先輩方をお招きして、「小学校の思い出」をテーマとしたシンポジウムを一月十八日開催しました。

創立百五十年記念

シンポジウム
「未来を引き継ぐ。百五十年から二百年、そしてその先へ。」

- パネリスト
- 元同窓会長 山本孝之さん
- 自治会長 吉見正樹さん
- 同窓会長 大須賀憲太さん
- 元児童会長 神野吾郎さん
- 主任児童委員 井本玲子さん
- 司会
- 実行副委員長 堀内一孝さん
- 八町小6年 小林愛乃さん
- 石川昌樹さん

最初のプールの建設では小学生在が穴掘りなどの手伝いを行っていったこと、サッカー部が東海大芸三位の成績を収めたこと、かつての給食では脱脂粉乳やクジラベーコンが提

供されていたこと、たてわり活動や六色の学年帽子がおよそ五十年前にスタートしたことなどを楽しく学びました。シンポジウムを通して、先輩たちの引き継いできた八町小学校の伝統と歴史を、これからの五十年は自分たちが担いたいと思いを新たにしている児童も多くいました。



昭和50年 たてわり遠足



令和4年 ふれあい集会

子どもの感想

昔の八町小はサッカーが強くて、東海四県の中で三位になったことを聞いて、すごいと思いました。プールがなかったころには、朝倉川、牟呂用水、豊川で授業を行っていたと聞いて、驚きました。八町小には、いろいろな歴史があることがわかりました。井本さんが6年生のときにカラー帽子やたてわり活動が始まったことを知って、五十年前から受け継がれているものに、現在、私たちが携われていることができているんだと知り、感動しました。

地域や人と関わり 豊かに学ぶ豊城中

いのちの講話

本年度の「いのち」について考える集会は、(あの日)以後を生きる「東日本大震災における被災地の現状等から学ぶ」というテーマで、高師台中学校の田中麻美さんから



満足のいく作品ができました。同じ面を作っても、作り手が異なれば、さまざまな表情の面になります。並んだ面を見てみると、その違いがまた、味わい深いと感じました。丁寧に指導くださった竹とんぼ会の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

2年生は千年以上の歴史をもつ鬼祭りについて学びを深めました。9月には、豊橋竹とんぼ会の皆さんを講師に招き、5回にわたり鬼面の制作を行いました。赤鬼、青鬼、天狗、鍾馗(しょうき)、おかめ...講師の方から示していただいた面のなかから、お気に入りの面を選び、制作がはじまりました。先生方に作り方の見本を見せていただきながら、一つ一つの作業に心を込めて丁寧に取り組みました。真つ白な面に筆で顔を書いていくときは、手が震えるほど緊張しました。角の長さや頬の色の薄め方にもこだわり、それぞれに満足のいく作品ができました。同じ面を作っても、作り手が異なれば、さまざまな表情の面になります。並んだ面を見てみると、その違いがまた、味わい深いと感じました。丁寧に指導くださった竹とんぼ会の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

鬼のお面づくり

吉田文楽体験

1年生の吉田文楽体験学習では、講師の方2名をお招きし、お話を聞いたり、実際に人形を操る体験を行ったりしました。

講話では、講師の方から、人形浄瑠璃の魅力や使命感をもって伝統を受け継ぐその強い思いについて教わりました。また、体験活動では、3人1組で一つの人形を動かす、その難しさや楽しさを体感しました。「実際に人形を動かしてみても三業一体の難しさを知った」「古くから工夫が施され、大切に受け継がれてきた人形浄瑠璃を私たちが大切にしたい」「豊橋市民としてこの大切な文化を守り、保存していくことが私たちの役割だと感じた」など、学習を通して、伝統を今の時代まで守り続ける大変さを知ることも地域に残る人形浄瑠璃が世界に誇れる素晴らしい文化であることに気づかされました。



話をしていたいただきました。震災後から継続的にボランティアに参加している田中さんから、大震災の被害状況や震災後の状況を聞きましました。講話の最後には、「災害時には、まず助かることが大切。そのためには、率先して避難してほしい。人の「いのち」は、他のどんなものでも『代わり』にはならない大切なものだから。」というメッセージをいただきました。

オペラ鑑賞



6月10日(金)に世界的なオペラ歌手、森谷真理さんのミニコンサートが行われました。体育館に響き渡る歌声に「包み込むような歌声が心に染み渡った」と感動した。また、「透き通った声に感動した」など多くの生徒たちが音楽のすばらしさを実感しました。そこで学んだ「オペラボイス」の美しさを、11月に行われた合唱コンクールで自分たちの歌にいかしていきなると発声練習に取り組み姿がありました。オペラ鑑賞会で豊かな体験が生きた学びとなり、生徒たちの成長につながっています。

豊川クリーン作戦



郷土愛を深める目的で行われている伝統的な活動である豊川クリーン作戦が、10月31日に実施されました。豊川河川敷を3年生、吉田神社、安久美神明社を2年生、豊橋公園を1年生で担当し、落ち葉やゴミ拾いなどの清掃活動を行いました。生徒一人一人の積極的な取り組みで100袋以上の落ち葉などが集まり、地域美化に対する意識の高さがうかがえました。



艱難汝を玉にす

副会長 吉見正樹

この言葉は「かんなんなんじをたまにす」と読み、とても難しく聞こえますが、実は、人を励ましたり元気づけたりできることわざです。そんな素敵なことわざを自分で心に留め使いこなすために、その意味や由来等をお伝えしたいと思います。その意味は「困難や苦勞を乗り越えることで、人は立派に成長すること」です。由来は西洋のことわざで「逆境は人を賢くする」英語で「Adversity makes a

man wise」と言われています。この言葉を皆様に当てはめれば「学問に王道なし」ということわざと同義語になります。人間はいくつになっても勉強する気持を無くしてはいけません。学問を修めるのに簡単な方法はなく、誰であろうと苦勞して、努力して習得していくほかはないということである。皆さまは中学生として今は努力して勉強に集中し、今しかできない知識を身につけるべきと教えてくれています。